第 43 回 国際経済協力セミナー

外大生が国際機関インターンから得られるものは何か？

講演者：永井哲平氏、熊桜氏、佐久間翔氏

文責：永井哲平

草案作成：原田美智子　高橋和司　寺井彩

森下友香子　小河絵里香

今回の講演は、それぞれ国際移住機関(IOM)、国際経済開発協力機構(OECD)でのインターンシップを終えた 3 人の本学院生を迎えて行われた。

講演者：永井哲平氏

派遣先：国際移住機関(IOM) Regional Office for the Asia and the Pacific, Labor Migration/Migration and Development Intern

派遣期間：2012 年 9 月～2013 年 2 月

1. IOM について

IOM（国際移住機関）は、世界的な人の移動、移住を専門に扱う国際機関である。「正

規のルートを通して、人としての権利と尊厳を保障する形で行われる人の移動は、移民と社会の双方に利益をもたらす」という基本理念に基づき、幅広い活動を続けている。本部はスイスのジュネーブにあるが、主に活動の中心を担うのは世界各地にある 440 のフィールドオフィスであり、永井氏が派遣されたのはバンコクにある Region Office for Asia and the Pacific である。

2. 業務内容

永井氏が派遣された部署は、主に Labor Migration/Migration and Development Specialist である上司をサポートする役割を担う。具体的な内容としては、大きく分けて５つあり、Labor Migration, Migration and Development に関するプロジェクトドラフトの作成、ミーティングのセッティングや議事録作成の補助、プロジェクトのための情報収集、GMS における Labor Migration のデータベースの作成、そして上司の補佐を行った。

3. インターンシップの成果、課題

達成できたこととしては、国際機関の役割や実務について理解できた、仕事を通して上司や同僚とのコミュニケーションを高められたという点が挙げられる。ほかにも、職員とのコミュニケーションの重要性に気づくことができ、また、遠い存在でしかなかった国際機関に対し、進路の選択肢の一つとして考えられるようになった。反対に、今後の課題となったのが英語力の向上であった。さらに、仕事のペースがはやいために、求められた内容や速度で仕事を達成できなかったこともあったようである。

講演者：佐久間 翔氏
派遣先：経済協力開発機構(OECD) 金融・企業局投資部門
派遣期間：2012 年 9 月～2013 年 3 月

1. 派遣先について

OECD 企業局投資部門は、フランス・パリ市の裕福な階層の人が生活しているエリアにある。「投資部門」という名前で投資銀行や証券会社を連想する向きもあるが、この部門では国家に対する直接投資並びに国家間投資を扱っている。

2. 派遣先・補足

佐久間氏が配置されたチームが担当しているのは、The OECD Guidelines for multinational enterprises である。ここでは多国籍企業への投資の指針を作成している。

3. 業務内容
詳しい業務内容は担当しているチームの視点から多国籍企業への Corporate social responsibility (CSR) を評価・分析し、指針が遵守されているかどうかを評価するものであった。なお、インターン期間の前半はヨルダンへ投資している多国籍企業を扱い、後半はカザフスタンへ投資している多国籍企業を扱っていた。

4. インターンシップの生活まとめ
上述の業務を日々遂行し、チーム外の職員や日本政府代表部の職員とランチ・ディナーなどを通じて交流を深め、今後のキャリアパスを考えることができた。OECD 職員のキャリアは実にさまざまなものがあるが、大抵の職員は何らかの前職があるということである。その上で国際機関現役職員より、修士論文についての助言をいただくことができた。

5. インターンの成果
OECD という国際機関の役割を理解し、それを自分の研究内容や研究方法の進展に結びつけられた。その上で業務を実際にこなすことで業務を理解し、そのスキルを向上させることができた。なお、実際に職に就いた職員は 30 歳前後で OECD に就職した者が多いようだ。そして最も大事なのは、実際に職務に就いた場合、上司との相性が非常に大事なものであると実感した。

講演者：熊桜氏
派遣先：国際移住機関(IOM) サライェヴォ オフィス, Communications Intern
派遣期間：2012 年 9 月～2013 年 2 月

1. IOM について
IOM とはスイスのジュネーブに本部を置く非国連の国際機関である。世界的な人の移動（移住）の問題を専門に扱っている。「正規のルートを通して、人としての権利と尊厳を保障する形で行われる人の移動は、移民と社会の双方に利益をもたらす」 という基本理念に基づき、移民個人への直接支援から関係国への技術支援、移住問題に関する地域協力の促進にいたるまで、 幅広い活動を行っている。

2. 業務内容
主な業務内容は、書類事務とアウトリーチ活動であった。組織の広報活動のサポート、NATO、防衛省と協力したボスニアの退役軍人の社会復帰支援、ボスニアのローマ人の

支援に関わり、特にローマ人の若者支援のために Facebook を利用した活動なども行った。所属部署には熊氏と上司の 2 人しかおらず、インターン生といえどもかなりの仕事をこなすことを求められたという。

3. インターシップの成果

バルカン半島に対する理解が深まり、国際機関の実務と役割を肌身を持って学び、今後のキャリアパスについて考えるきっかけとなった。IOM のボスニア・ヘルツェゴヴィナオフィスで働く初めてのアジア人で、ボスニア人の上司の元、現地の職場や文化になじむために努力をした。同氏は 2012 年 9 月から半年間のインターンシップの中において、馴染みの薄い言語・文化の中で業務を行うことにより、客観的に国際関係を見る視点を養えたと言う。

国際機関でのインターンシップを終え、内側から国際機関を見ることができた院生達は一様に国際機関をより身近に感じることが出来るようになったと語っている。この講演を通して、学生たちは国際機関の業務をより具体的に知ることが出来、彼らの国際機関への興味は強く喚起されただろう。